

第5回京田辺市文化振興懇話会（会議録要旨）

日 時 平成 27 年 3 月 19 日（木）午後 1 時 30 分～3 時 00 分

場 所 京田辺市保健センター 第 2 保健指導室

出席者 <委員>真山会長、山田副会長、潮委員、藤本委員、澤井委員、村中委員

<市側>山口教育長、鈴木教育部長、西川教育部副部長、藤井教育総務室担当課長、前川社会教育・スポーツ推進課長、中川社会教育・スポーツ推進課担当課長、田原教育総務室企画係長、松本教育総務室主事、池上(株)名豊課長代理

1 開会

2 議事

(1) 京田辺市文化振興シンポジウムについて

(2) 岡山県真庭市への文化行政視察について

【会長】真庭市は岡山県の山間部ですので、良くも悪くも利用者が逃げて行かない。一方、京田辺市のようにアクセスがよいと、市民は色々な所に出て行くという違いがあります。

【事務局】参考となるのは、真庭市久世エスパスセンターを指定管理している真庭エスパス文化振興財団のソフト事業で、エスパスオリジナルスという合唱団や管弦楽団を独自で運営し、エスパスセンターの内外で活動を充実させていることです。それが高い稼働率(90%以上)につながっています。

【会長】参考にしながら、今回の議事を議論していきたいと思います。

(3) 文化活動を担う人材の育成について

【委員】文化協会では中央公民館と共催で、支部とサークルの代表を対象に文化活動指導者研修会を実施しています。

【委員】生涯学習人材バンクはどうなっているのでしょうか。

【事務局】100名以上の方が人材バンクに登録し、年間20～30回登録者の派遣を行っています。登録は個人単位でサークル(団体)単位ではしていません。

【会長】文化活動を担う人材ということで、小さいころからの文化への親しみをどのようにつくっていくかが一つの論点ですが、その辺で現在の京田辺市の状況や課題があれば、お願いします。

【委員】小学校では、市の補助金で年に1回は演劇や音楽の鑑賞会を行っています。基本的に場所は学校の体育館で行っています。また、子どもは年に1回、学習発表会を行っており、その中で合唱や演劇を発表したり、鑑賞しあっています。

【委員】京田辺市文化振興シンポジウムの桃園ジュニアバンドの演奏では、子どもの顔が生き生きとしていました。あのような発表をすると、子どもの意欲がわいてきます。年に1回くらい発表会があると、もっと興味が湧いてきて、思い出にも残るし、大人になってもやっていけて、人材育成にもつながっていくのではないのでしょうか。絵画や書道などの芸術についても、コミュニティホールく

らしい規模でいいので、1年に1回くらい、子どもたちの作品展を学校全体でするのは難しいでしょうか。

【委員】学校全体では行っていません。市の書道展などの場合は、なるべく学校から出典させていただいています。

【事務局】スペースの問題もあります。できるだけ多くの子ども達ということに留意しつつも、限界もあります。他の機会も含めて考えていくこともできると思います。

【委員】関わりと興味が湧きます。ほめて育てることが大事だと思います。もう少し大々的に打ち込める機会があればいいと思います。公募展風に競い合うことも大事です。もっと意欲が湧いて、活気あふれるまちにつながっていくと思います。子どもを育てることが、人材育成になると思います。子どもの頃から芸術の目を肥やしてあげたいと感じます。

【委員】日常で目に触れる、耳にする経験が大切だと思います。例えば、校内でも作品展をしています。幼稚園や中学校からも作品を出してもらって連携しながらしています。中学校で頑張っている吹奏楽の先輩に来てもらって、音楽を聴くなども素晴らしいと思います。身近であるので、素晴らしいと思います。身近なところから広げる、そこからもう少し大きなことができないかと思っています。

【委員】親が本物を見るようなチャンスがあれば、子どもも同伴する。本物を見ることから、人材育成は始まると思います。

【会長】人材育成は、何でも難しいですが、そもそもどのような人材を育てたいのかという目的がはっきりしません。人それぞれ価値観がありますし、京田辺市の子ども達全員が、何らかの文化芸術に秀でることを目指しても、非現実的です。子どもにどのようなセンスや関心があるのか分からないので、その可能性を引き出すのが、大人の責任です。子ども達が望んでいるかは別にして、一度は接する機会が必要だと思います。学校での取組も重要ですが、それ以外でどのような文化芸術に触れる機会を増やしていくのか検討する必要があります。一方で、懇話会では文化芸術に焦点を合わせていますが、文化財や文化資源も文化に入ってきます。文化を担う人材を育成するためには、そのようなことに興味関心を持ち、価値や重要性を認識する子どもたちが、京田辺に多くいることも重要だと思います。芸術鑑賞やコンサートなども重要ですが、それ以外の地元の文化、自然資源も含めて、よく知ることも重要だと思います。伝統芸能などは自然や風土、生活と何らかの関連があって成り立っていますので、いろんな経験をすることも大事なので、そのような側面も文化振興では考える必要があると思います。

【事務局】真庭市では、施設付きの管弦楽団や合唱団をつくっていますが、そういったものを京田辺市でもやれる可能性はあるのでしょうか。稼働率を上げるためにするわけではないですが、稼働率が高い施設は、そのようなコンテンツでうまくやっており、人材育成も踏まえてうまく機能していると思っています。

【会長】真庭市の管弦楽団や合唱団はプロに近いものなのでしょうか。

【事務局】真庭市の管弦合唱団はアマチュアですが、演奏会にはプロが入りながらやっています。財源ですが、真庭エスパス文化振興財団の場合、市からの指定管理料と、財団が運営するケーブルテレビの収益とがあり、独自事業の費用も工夫して捻出しています。

【委員】京田辺市にはすばらしいコーラスがあり、施設付きの合唱団は可能だと思います。

【事務局】市民活動を巻き込んで、市民が拠点施設を活用して、発信して、外に出かけて行って、また拠点施設に帰ってくるという仕組みができればいいと思います。

【会長】京田辺市でホール専属のプロの楽団を持つのは難しいと思います。運営費が相当ネックになると思います。ホール専属的なアマチュアの楽団ならつくれないことはないが、市内のアマチュア団体を序列化することにつながるので、気を付けないといけません。箱物を本当につくるのであれば、工夫が必要だと思うし、人材育成もセットとなると思います。

(4) 文化財やお茶文化等の文化資源の活用について

【委員】文化財の保管スペースですが、大事なものを保管されるのであれば、現在の建物では耐震の不安があります。つくづく歴史資料館の設置は大事だと思いました。複合施設として、中央公民館の改修に向けて、空いたところに歴史資料館ができないかと思いました。ホールと歴史資料館を一緒に考えていくことは必要だと思います。

【事務局】中央公民館展示室、大住郷土民俗室では展示替えをしたり、保管状況の確認が難しい状況となっています。保存している文化財を中心に展示を行った場合、複合施設を考えていかないと、運営は難しいと思っています。

資料館は入館者の収入をあてにできない。文化財が市内の色々なところに散在しており、火災、地震、盗難をどうにかしないといけないということが話として出ています。どこかにまとめて保存するのかといった文化財の扱いについても、市として検討しないといけないと思います。

【委員】大事な文化財なので、大事に保管しないといけない。壊れてしまったでは済まされない。

【委員】いずれ複合施設ができれば、文化財を保存できるスペースを造ったらいいと思います。

【事務局】保存の問題と活用があります。保存については、文化財の中には市民からもらったものもあるので、放置はできない。活用については、学校教育の関わりなど、ネットワークでどのように行っていくのが課題となっています。ちなみに、今年初めて竹送りの行事に市内の小学校が参加しました。

伝統文化のほとんどは昔は各地域でやっていましたが、廃れたので、近年は各学校で復活させました。

【委員】伝統文化は地域に住む人々の心の財産なので、子ども達にも引き継いでいければと思います。

【会長】文化財、文化資源ですが、なかなか活用まではいかないのが正直なところです。文化資源はあるが、各地から観光客を呼び込めていないのが現状だと思います。もともと観光の語源は、国の光を観るということ。地域が光り輝いているのを観たい人が観に来るのが観光です。地元で盛り上がっていかなかったら誰も観にきません。伝統文化や文化財は、すでにあるものを有効に観たり・体験したり出来る仕組みを作っておかないと、ただあるというだけでは誰も観に行きません。とりあえず保管している状態から、整理し、活用していく視点での取り組みが必要となるので、一定のコストはやむを得ないと思います。さらに進んでいって、採算が取れば一番いいと思います。懇話会の意見としては、地域の大事な資源であり、歴史である伝統文化を大切に後世へ伝えていくためには、展示を含めて、文字通りの活用を行っていかねばいけないし、ある程度のお金をつぎ込むことも必要だと思います。文化財の展示だけではなく、色々なことと組み合わせながら、コストの削減、効率的なやり方を模索する必要があると思います。お茶は世界遺産の話もあるので、時期的には今本気に対応していく必要があると思います。

【事務局】お茶は観光振興のテーマではありますが、お茶をたしなむというのが、文化の中にあると思います。小学校などでの茶つみ体験をできるだけやろうということがあり、そこから広がっていけ

ばいいと思っています。

【委員】お茶の先生の指導を導入している幼稚園は、それが評判となって入園者が増えたという例もあります。

【会長】市民生活の中でお茶が根付いていくことが、玉露（宇治茶）のまちをアピールすることにつながると思います。伝統芸能もそうですが、いかに日常的に市民が文化に親しんでいるか、生活に取り込んでいるかが重要なので積極的に進めていく。地域の伝統文化に親しむ、学ぶチャンスを、勉強みたいに堅苦しくなく、楽しみ、年中行事などで実現していくことが重要だと思います。文化振興という観点から見ると、観光は結果であって、目的ではありません。文化が振興していったら、結果として観光振興となることはあると思いますが、観光のために文化を何かするというのは、別の話だと思います。

3 閉会